

通し番号	4 4 1 6
------	---------

分類番号	20-95-35-02
------	-------------

(成果情報名) 県内で発生したアユの新型ボケ病	
(要約) ボケという病名は、病魚の不活発な遊泳状態に由来するものであり、従来は細菌性鰓病を示すものであった。しかし近年、同病と同様の症状を示すものの、同病が原因でない「新型ボケ病」の発生が報告されるようになった。2008年、県内養殖場で初めて新型ボケ病の発生が確認され、病魚からボックスウイルスが検出された。治療法として低濃度長時間塩水浴が有効であった。	
(実施機関・部場名)	神奈川県水産技術センター・内水面試験場 連絡先 042-763-2007

#### [背景・ねらい]

ボケという病名は、病魚の不活発な遊泳状態に由来するものであり、かつては*Flavobacterium branchiophilum* を原因菌とする細菌性鰓病を示すものであった。しかし近年、細菌性鰓病と同様の症状を示すものの、*F. branchiophilum* が原因でない新型のボケ病の発生が報告されるようになった。新型ボケ病の原因は未だ特定されていないが、大型細胞が鰓組織に観察される「異形細胞型」、異形細胞と*F. branchiophilum*と異なると考えられる長桿菌がセットで観察される「異形細胞＋長桿菌型」及び長桿菌のみが観察される「長桿菌型」に分けられている。さらに、「異形細胞型」病魚の鰓にボックス様ウイルスの存在が明らかにされ、そのウイルスは*Plecoglossus altivelis poxvirus* (PaPV) とされている。このような状況を受けて、2008年、11県で構成されるアユ疾病研究部会及び東京海洋大学により広域的な疫学調査が行われ、本県もこの調査に参加した。

#### [成果の内容・特徴]

- 1 2008年、県内のアユ養殖場1件で新型ボケ病が疑われるへい死発生し、聞き取り調査、光学顕微鏡による観察及びPCR検査を実施した。
- 2 聞き取り調査の結果、平均体重30gのアユを10500尾飼育していたところ、5月30日から死亡が始まり、6月3日に終息した。累積死亡尾数は400尾、累積死亡率は3.8%であった。
- 3 光学顕微鏡による観察の結果、鰓組織の腫張及び出血等(図1, 2)が認められたが、長桿菌は観察されなかった。
- 4 PCR検査の結果、PaPVはサンプル6尾が全て陽性、*F. branchiophilum* は全て陰性であった。
- 5 これらのことから、ボックスウイルスの関与が疑われる新型のボケ病の発生が確認された。
- 6 なお、給餌中止及び0.3%で36時間の塩水浴の措置を講じたところ、死亡は速やかに終息した。

#### [成果の活用面・留意点]

- 1 新型ボケ病発生時は、給餌中止及び0.3%の長時間塩水浴が有効と考えられる。
- 1 疫学調査に継続的に参加し、今後長桿菌との関係など新型ボケ病の解明に努める。

[具体的データ]



図1．鰓の腫張

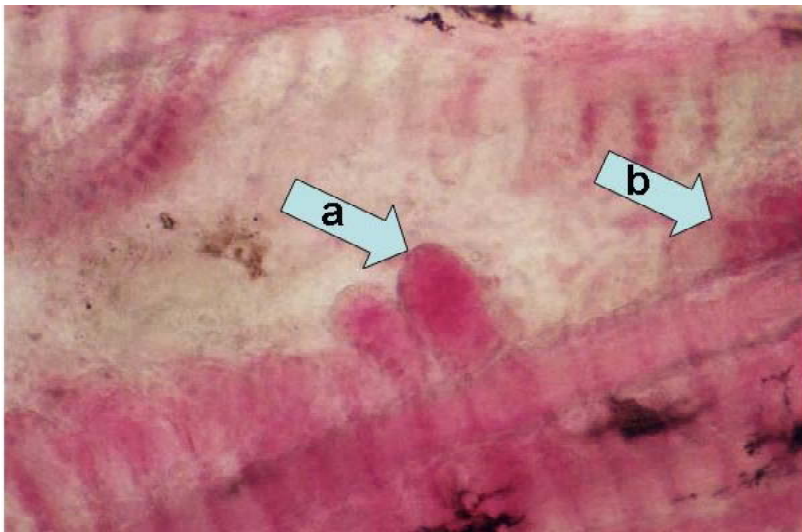


図2．鰓の動脈瘤（矢印a）及び出血（矢印b）

[資料名] 原日出夫（2009）第24回神奈川県水産技術センター業績発表会要旨  
[研究課題] 水産動物保健対策事業  
[研究期間] 平成20年度  
[研究担当者] 原日出夫